

基本目標4 魅力と活力があふれるまち

## 4-1-1 地域に根付く産業の活性化



### ありたい姿

地域に根差した産業の特徴や強みが新技術の活用などによって発揮され、生産性の向上や新たな付加価値の獲得につながり、更なる投資や雇用が生み出される好循環が生まれ、地域経済が成長、発展しています。

### 現状

- ・人口減少や少子高齢化の進行、脱炭素化<sup>\*</sup>やデジタル化の加速など、社会経済環境が目まぐるしく変化  
する中、市内企業では労働力不足の解消や競争力強化、事業承継への対応などの多様な課題が顕在化し  
ており、持続可能な事業経営に向けた支援が求められています。
- ・また、高田・直江津の中心市街地においては、インターネットを利用した宅配・通販サービスの普及な  
どにより、空き店舗の常態化やにぎわいの低下が見られます。

### 目標

- ・地域内の企業同士の取引が増え、域内循環が増えるとともに、災害や経済危機に左右されない変化に強  
い企業が増えています。
- ・大都市圏などに販路を拡大し、地域外からの資金流入に資する企業が増えています。
- ・魅力や特色ある店舗が数多くあり、歴史や文化、人的資源をいかした商店街が形成されています。
- ・AI<sup>\*</sup>やIoT<sup>\*</sup>、ローカル5G<sup>\*</sup>などの技術革新のための市内企業の設備投資が活発化し、労働力不足によ  
る経営状況の悪化や事業承継の課題が解消されています。

### 成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
製造品出荷額等	602,605百万円 (R1)	602,605百万円	730,000百万円
売上が増加した メイド・イン上越 <sup>*</sup> 認証品数の割合	工業製品：60.7% 特産品：37.0% (R3)	工業製品：65.0% 特産品：40.0%	工業製品：70.0% 特産品：45.0%
中心市街地における空き店舗数	27店 (R3)	25店以下	23店以下
DX認定企業 <sup>**</sup> 数 (累計)	0社 (R3)	6社	11社

## 施策の柱

### 1 工業の活性化

- ・企業の設備投資を促進するため、奨励措置による支援を行うとともに、企業訪問や関係機関との連携を通じ、国や県等も含めた支援制度の周知と情報収集に取り組みます。
- ・産学連携や企業間連携のコーディネート等を行うほか、新分野への参入や、新技術・新製品の開発、DX<sup>\*</sup>の導入・活用、人材育成を支援し、地域に根差したものづくり企業等の支援に取り組みます。
- ・販路開拓に向け、優れた工業製品及び特産品を認証し、官民一体となってPR等を行うほか、市内企業のマッチングの機会を創出するために市外等で行われる展示会等に出展する企業への支援、企業が保有する技術・設備等の情報の発信に取り組みます。

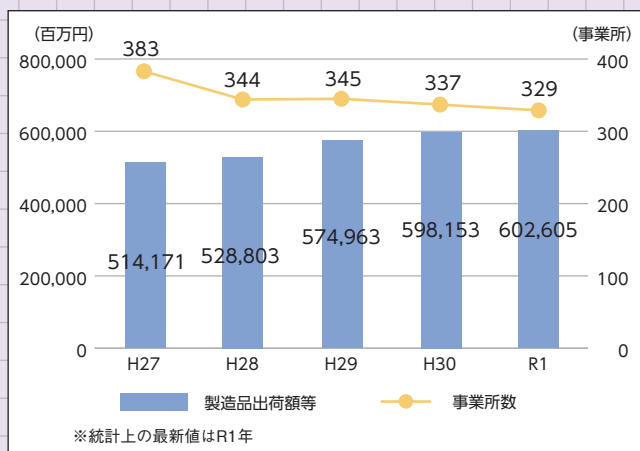
### 2 商業の活性化

- ・高田・直江津の中心市街地の商店街において、意欲ある店主・創業者・小規模企業者・中小企業者等が始める新たなビジネスや、商店街全体や店舗の魅力を高めるための積極的な挑戦を支援します。
- ・中小企業者・小規模企業者等による売上げや固定客の増加に向けた主体的な取組を支援し、地域の商業・サービス業や商店街の活性化を図ります。

### 3 中小企業・小規模企業の振興

- ・中小企業・小規模企業振興基本条例<sup>\*</sup>の理念に基づき、市内の経済状況を適時・的確に把握し、時流を捉えた経済支援・企業支援施策を立案・実施します。
- ・中小企業者等が資金調達しやすい環境を整備するとともに、事業承継を支援することで、地域内企業の経営の安定化と事業継続を推進し、地域の生業や雇用を守ります。
- ・経営革新を支援することで、事業が生む付加価値の増加やDX等の組織改善を誘導し、地域内の中小企業等の成長を促します。

●製造品出荷額等と製造業の事業所（従業者4人以上）数



出所：経済産業省「工業統計調査」、総務省「経済センサス-活動調査」



▲首都圏におけるメイド・イン上越認証特産品のPR販売

基本目標4 魅力と活力があふれるまち

# 4-1-2 企業立地・ 物流拠点化の推進



ありたい姿

陸・海の広域交通網の優位性をいかし、製造業や物流業を始め、新しい技術・サービスを提供する先進企業が立地するとともに、直江津港の物流やエネルギー港湾としての拠点性が高まり、地域経済の活力が生まれています。

現状

- ・市内の工業団地では、分譲が順調に進む一方で、企業の投資意欲の高まりに対応した、一団の工業用地の提供が困難な状況になっています。
- ・直江津港では、韓国釜山港をハブとした全世界への物流ネットワークを構築しているものの、便数の少なさや仕向地への直行便がないことから、企業が利用を敬遠する場合も見受けられます。
- ・一方で、災害や大規模停電など非常事態の際に、太平洋側の港湾の代替港としての利用拡大が期待されています。

目標

- ・広域交通網をいかした製造業や物流業を中心とした企業立地により、市内総生産の増加と市民の働く場が確保されています。
- ・直江津港においては、LNG<sup>\*</sup>（液化天然ガス）等や後背地の企業による貨物が増え、企業の生産、流通、商業活動が活性化しています。
- ・脱炭素社会<sup>\*</sup>の実現に向け、エネルギー港湾である直江津港の特徴をいかしたカーボンニュートラル<sup>\*</sup>の取組として、民間企業と共に水素やアンモニアの利活用の実証実験が行われ、港の競争力が高まっています。

成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
工業用地の分譲面積（延べ面積）	315.8ha (R3)	335.8ha	351.8ha
外貿定期コンテナ取扱量 ※コンテナ取扱個数は、20フィートコンテナ 1個に換算した数	27,631個 (R3)	35,000個	40,000個
直江津港の外貿定期コンテナの航路数	2航路 (R3)	コンテナ航路数・ 仕向地の増加	コンテナ航路数・ 仕向地の増加

## 施策の柱

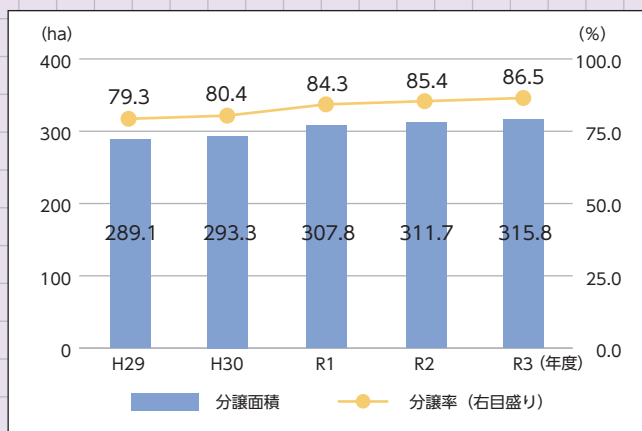
### 1 企業立地の推進

- ・広域交通網の利便性をいかしつつ、社会経済環境を見据えた中で、ターゲットとする業種や業態を絞り込み、地域経済にとって好影響・好循環をもたらす企業の誘致に取り組みます。
- ・新規立地を希望する企業ニーズに即応できるよう新たな工業団地の整備に向けた検討を進めます。

### 2 直江津港の拠点性の強化

- ・直江津港の更なる利用促進に向け、後背地の企業へのセールスや他港を利用する企業の直江津港への切り替えに向けた取組を強化します。
- ・仕向地の増加による港の利便性向上を図るため、港湾管理者と連携し、船会社へのセールスを行うとともに、冷蔵・冷凍貨物など、現状の直江津港で取扱いが少ない貨物に対応するための港湾整備に取り組みます。
- ・直江津港のエネルギー港湾としての拠点性の向上に向け、脱炭素化<sup>\*</sup>に向けたカーボンニュートラルポート<sup>\*</sup>の取組や、水素やアンモニアの利活用による実証実験が積極的に行われるほか、メタンハイドレート<sup>\*</sup>の商業化に向けた取組が促進されるよう、環境整備に努めます。

#### ●工業団地の分譲面積・分譲率



出所：上越市産業立地課（各年度末現在）



▲新潟県南部産業団地航空写真



▲直江津港のガントリークレーン

## 基本目標4 魅力と活力があふれるまち

### 4-1-3 新産業・ビジネス機会の創出



#### ありたい姿

新産業・成長産業の創出や、起業・創業などにより、多種・多様な魅力ある働く場が生まれるとともに、国内外との経済交流により、市内企業が全国、世界に事業を発展させています。

#### 現状

- ・若者の流出超過が続く中、若者や子育て世代が当市に戻ってきやすい環境を整備するため、多様な働く場を確保する必要があります。
- ・また、社会のデジタル化が加速し、AI<sup>\*</sup>やIoT<sup>\*</sup>等の先端技術や新しいサービスが生まれ、あらゆる産業や生活分野の高度化・高付加価値化に寄与していることから、そのような新産業・成長産業を市内で創出し、地域経済を活性化していくことが求められます。
- ・さらに、今後、人口減少が進み、国内市場の縮小は避けられないことから、企業の事業継続や発展に向け、海外での新たな市場開拓を後押ししていくことが求められます。

#### 目標

- ・首都圏等にあるIT企業<sup>\*</sup>や先進企業等による拠点の開設や起業・創業の増加により、多様な働く場が確保されています。
- ・新たな産業の創出やビジネス機会の創出につながる経済交流が活発に行われています。
- ・海外市場での販路拡大を通じて、収益拡大を図る企業が増加しています。

#### 成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
IT企業等の新規立地企業数（累計）	3社（R3）	14社	22社
創業（実現）件数	81件 (H29-R3平均)	85件	90件
見本市等への出展を支援した事業者のうち、 販路拡大につながった件数	5件（R3）	10件	15件

## 施策の柱

### 1 新産業・成長産業の創出

- ・上越妙高駅周辺を中心にIT企業\*や先進企業等の誘致により、多種・多様な働く場の創出につなげるとともに、進出企業と市内の既存企業の交流と連携を促進し、地域経済の活性化を図ります。

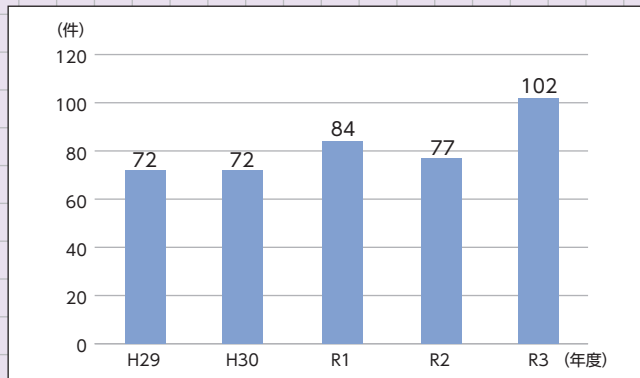
### 2 起業・創業の支援

- ・起業・創業の意欲が旺盛な若者や女性のほか、UIターン\*者等による自らの経験をいかした創意工夫に満ちた起業・創業を促進します。
- ・金融機関や商工関係団体による支援体制を構築し、各種相談や交流の機会を創出するなど、起業・創業しやすい環境を整えます。

### 3 新市場開拓の促進

- ・市内企業の事業継続や発展に向け、海外での新たな事業展開に対し、貿易関係団体等と連携しながら、的確な情報提供や支援に取り組むほか、様々なつながりをいかした国内外との経済交流を進め、新たなビジネスチャンスの創出につなげます。

#### ●創業（実現）件数

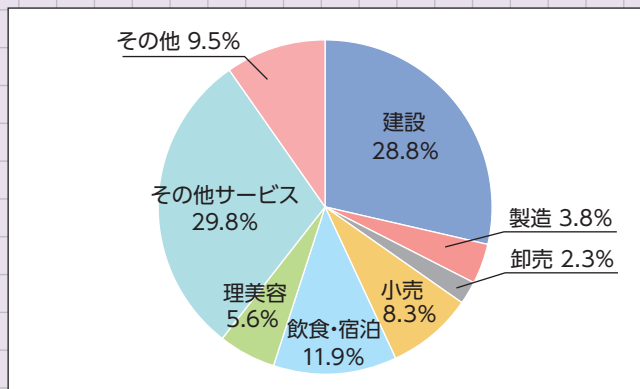


出所：上越市産業政策課

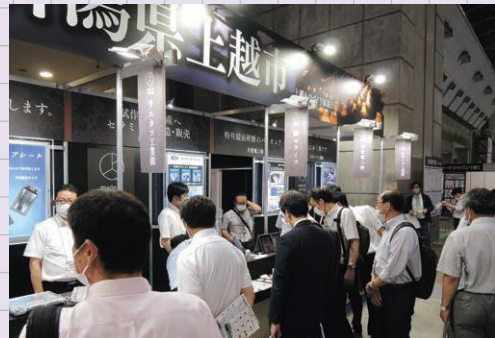


▲ローカル5Gを活用した coworkingスペース・サテライトオフィススペース（JM-DAWN（ジェーム・ドーン））

#### ●起業家の業種別内訳（H29～R3合計）



出所：上越市産業政策課



▲機械要素技術展（東京ビッグサイト）

## 4-1-4 雇用機会の拡大と就労支援



### ありたい姿

全ての市民が、それぞれのワーク・ライフ・バランス<sup>\*</sup>に合う多様な働き方を実践しながら、誇りややりがい、向上心を持って仕事をしています。

### 現状

- ・ 少子高齢化等により生産年齢人口<sup>\*</sup>が減少していることから、女性や高齢者、障害のある人、外国人市民などの多様な人材が活躍できる就労機会の拡大と就労支援に取り組む必要があります。
- ・ 特に、若者の流出超過に伴い、市内の中小企業・小規模企業の人手不足の状況が続いています。
- ・ また、働き方の多様化が進む中、性別・年齢にかかわらず、ワーク・ライフ・バランスが実現され、誰もが生き生きとやりがいを持って働くことのできる魅力ある職場づくりが求められています。

### 目標

- ・ 市内の企業に魅力を感じて就労し、地元に着定する若者が増えています。
- ・ 市民一人一人の価値観やライフスタイルに応じた働き方が定着しています。

### 成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
高校新卒者の地元就職割合	75.3% (R3)	78.0%	80.0%
インターンシップ <sup>**</sup> 登録事業所で受入を行った学生の人数	77人 (R3)	350人	500人
就職率 (雇用期間の定めなし又は4か月以上)	38.6% (R3)	43.0%	50.0%
ハッピー・パートナー登録企業 <sup>**</sup> 数 (累計)	69社 (R3)	100社	160社

## 施策の柱

### 1 地元企業の認知度向上

- ・学生や就職希望者に対し、企業見学会や説明会等を通じて、地元企業を知る機会を提供するほか、企業の就職等に関する情報を発信し、インターンシップ\*の実施を支援することにより、市内企業への就職を促進します。

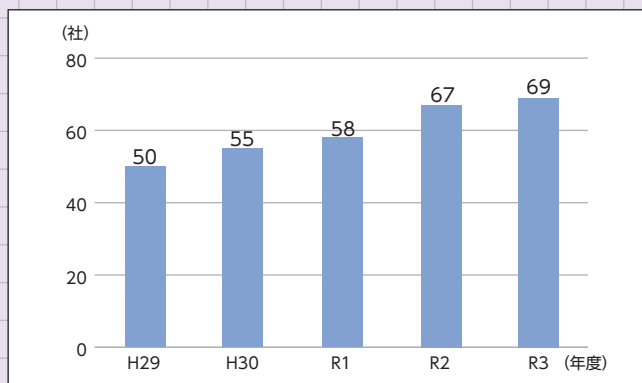
### 2 雇用環境の向上

- ・価値観やライフスタイルの多様化に応じたワーク・ライフ・バランス\*の実現に向け、市内事業者等への制度周知や意識啓発に取り組みます。
- ・勤労者福祉サービスセンター\*において、健康維持・生涯学習補助等の福利厚生サービスの提供を行い、勤労者の健康維持と余暇活動の充実を図ります。
- ・性別や年齢、国籍に関係なく、市民一人一人がやりがいや充実感を感じながら働き、家庭や地域生活を含めた、人生の各段階に応じて多様な生き方が選択・実現できるよう意識啓発に取り組みます。
- ・管理職、中堅社員等へのセミナーを通じた若者への理解の醸成を図るとともに、高校生の企業見学会等を通じて、雇用のミスマッチの解消を図っていきます。

### 3 職業能力の習得・向上

- ・技能労働者に対する職業訓練の場を提供し、就職に役立つ資格の取得を促すなど、技術・技能の向上を支援します。
- ・経済的な自立に向けて支援が必要な若者などに対して、関係機関と連携して相談や支援の強化を図ります。

#### ●ハッピー・パートナー登録企業数



出所：「新潟県ハッピー・パートナー企業登録一覧表」を基に作成



▲高校生の企業見学会



## 基本目標4 魅力と活力があふれるまち

### 4-2-1 観光振興の強化



#### ありたい姿

当市ならではの豊かな風土や食、歴史・文化など、磨かれた地域資源やおもてなしにより、多くの人が年間を通じて訪れて楽しみ、市民も自慢できる観光地となっています。

#### 現状

- ・当市における観光は、季節イベント型の観光に偏る傾向があり、来訪者が市全体の魅力を感じられる仕組みが整っていないため、地域の豊かな観光資源を組み合わせ、通年において来訪者の増加や周遊による消費につなげていくことが求められます。
- ・また、「佐渡島の金山」の世界文化遺産登録に向けたユネスコ<sup>※</sup>への推薦や北陸新幹線の敦賀延伸を交流人口<sup>※</sup>が拡大する好機と捉え、新潟県の西の玄関口として観光客を呼び込み、市内観光へつなげていく必要があります。
- ・加えて、インバウンド<sup>※</sup>や個人旅行など、旅行ニーズの多様化やアフターコロナ<sup>※</sup>の観光需要の動向を踏まえ、観光客の利便性や満足感の向上に資する受入態勢等を整えていくことが重要です。

#### 目標

- ・市民が地域への愛着と誇りを持って観光振興の取組に参画し、観光コンテンツ<sup>※</sup>や来訪者の受入環境が充実しています。
- ・周辺自治体等と連携した情報発信により、国内外の来訪者が継続的に当市を訪れています。
- ・市内観光の回遊性が高まり、来訪者の滞在時間が増加するとともに、経済効果が生まれています。

#### 成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
市の観光振興に対する満足度 ※市民、事業者との連携による観光の振興に対する満足度（上越市市民の声アンケート）	10.1% (R4)	12.5%	15.0%
市内への観光客入込数	3,170千人 (R1-R3平均)	5,370千人	6,040千人
観光消費額	10,500百万円 (R1-R3平均)	20,100百万円	25,400百万円
上越観光Navi <sup>※</sup> の閲覧件数	1,575,000PV (R3)	1,732,500PV	1,890,000PV

## 施策の柱

### 1 当市ならではの観光地域づくり

- ・地域への愛着と誇り、地域の一体感を育み、多様な交流の機会を創出する各種イベントの支援に取り組みます。
- ・高田・直江津・春日山の3つのエリアを柱に、それぞれの地域で育まれてきた歴史や文化等の地域資源をいかし、地域一体となって年間を通じて来訪者を受け入れる環境づくりに取り組み、市全体の人の流れ・交流を生み出します。
- ・市民や事業者の観光マインドの醸成を図りながら、魅力ある地域資源を活用し、多様化する旅行者のニーズを捉えた観光コンテンツ\*の提供や受入態勢の充実に取り組みます。

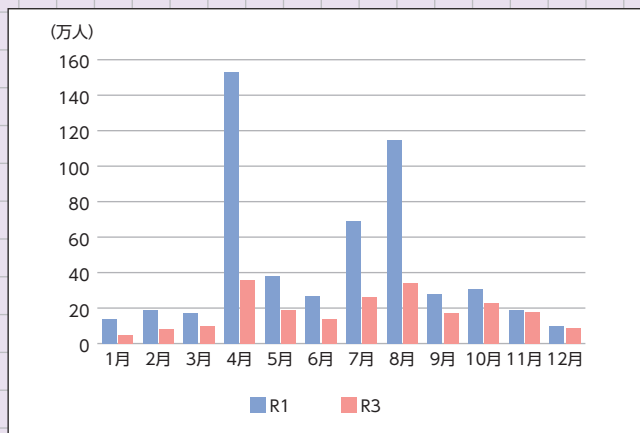
### 2 広域交通網をいかした広域周遊観光の推進

- ・広域交通網をいかした誘客を促進するとともに、広域的な周遊・滞在交流型観光の促進に向け、事業者や周辺自治体と連携の下、都市間の魅力的な観光資源を有機的に結び付け、周遊できる観光ルートの設定やプロモーション活動\*に取り組みます。

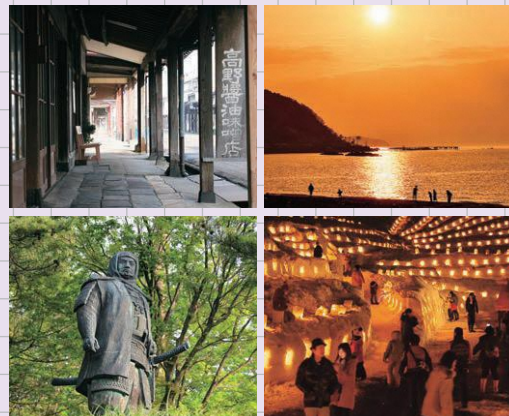
### 3 市内の回遊性の向上

- ・上越観光Navi\*やSNS\*等を通じて、当市ならではの観光コンテンツやイベント等を効果的に組み合わせることで発信するとともに、各地をストレスフリーに移動・周遊できる環境の整備に取り組みます。

●市内観光客の入込数（年別・月別）



出所：新潟県観光入込客統計



▲当市ならではの観光地域



▲上越観光Navi

## 4-2-2 シティプロモーションの推進



### ありたい姿

当市の魅力が市内外に広く伝わり、関心や興味、愛着が高まる中で、「住み続けたいまち」、「訪れたいまち」として当市が選ばれ、多くの人々を呼び込み、まちににぎわいがあふれています。

### 現状

- ・当市には、四季折々の豊かな自然や雪国ならではの歴史・文化、さらには、米や酒を始めとする農林水産物や加工品、独創的な技術を用いた工業製品など、全国や世界に自信を持っておすすめできる魅力が数多く存在しています。
- ・一方で、全国的に、特産品販売や観光誘客の取組が活発化し、様々なメディアで情報があふれるとともに、人々の価値観や趣味が多様化する中において、当市の資源や製品の魅力が、市民も含めて広く認知されているとはいえない状況にあります。
- ・また、近年、人口減少・少子高齢化の進行や進学・就職に伴う若者の市外転出、事業者の減少などにより、まち全体の活力やイメージの低下が懸念される中、当市の様々な魅力をアピールすることで、市内内外から興味や関心を集め、交流・関係人口や移住者の増加、企業の立地や域外からの所得獲得につなげていく必要があります。
- ・さらに、市内においては、まちの魅力に気付き、愛着と誇りを持って住み続けたいと思う市民を増やしていくことが求められています。

### 目標

- ・ふるさとを誇りに思い、「上越市が好き」、「上越市に住み続けたい」という市民が増えています。
- ・当市の様々な魅力が市民ぐるみで発信され、上越市に行ってみたい、住んでみたいという人が増えています。
- ・上越市を応援したい人や企業が増え、関係人口<sup>\*</sup>やふるさと納税<sup>\*</sup>額が増加し、地域課題の解決につながっています。
- ・大規模なイベントやコンベンション<sup>\*</sup>が多数開催され、多くの人々が当市を訪れています。

### 成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
上越市に愛着があると感じている市民の割合 (上越市市民の声アンケート)	75.7% (R4)	77.5%	80.0%
上越市に住み続けたいと感じている市民の割合 (上越市市民の声アンケート)	71.9% (R4)	76.0%	80.0%
ふるさと納税の金額	16,426千円 (R3)	450,000千円	700,000千円
100人以上の宿泊を伴うコンベンションや スポーツ合宿の誘致件数	6件 (R3)	11件	15件

## 施策の柱

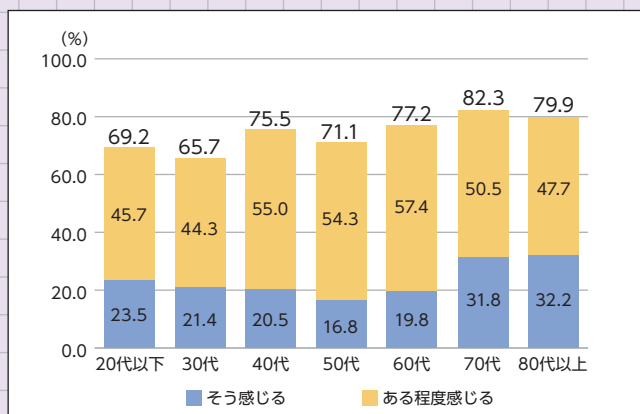
### 1 市内外に向けた情報・魅力発信の推進

- ・一つ一つの資源や産品について、産業振興や地域振興等の施策と連携しながら、付加価値の向上や差別化を図り、磨き上げていくとともに、それらの魅力や活動、背景にある当市の歴史・文化の価値などを総合的に発信していきます。
- ・その発信に際しては、市民や事業者、団体等の様々な主体から参加・協力してもらいながら、地域ぐるみで市内外へ発信していくことにより、個々の魅力はもとより、相乗効果を発揮させていくことで当市の認知度やイメージ、地域への愛着などの向上を図り、市民の定住や交流・関係人口<sup>\*</sup>の拡大、移住者の増加、企業の立地や域外からの所得獲得などを後押ししていきます。
- ・交流人口<sup>\*</sup>や関係人口の拡大に向け、観光入込数や消費額等の統計データに加え、来訪者の行動情報を収集・分析し、情報発信の目的やターゲットを明確にした上で、ニーズを捉えた実効性のあるプロモーションに取り組みます。
- ・様々な産品の需要を高め、市内事業者の販路拡大を図るとともに、当市の魅力発信や交流人口の拡大、地域の活性化につなげるための有効な仕掛けとして、ふるさと納税制度<sup>\*</sup>を積極的に活用していきます。
- ・市外の企業に対し、企業版ふるさと納税制度<sup>\*</sup>の活用をPRし、当市のまちづくりに対する理解と応援を促進していきます。

### 2 各種コンベンション等の誘致

- ・北陸自動車道、上信越自動車道の2本の高速道路や、敦賀まで延伸する北陸新幹線や地方鉄道など、広域的なアクセスの利便性を強みとしながら、民間事業者との連携の下、交流人口の拡大に向け、各種コンベンション<sup>\*</sup>やスポーツ大会等を誘致するとともに、開催の支援に取り組みます。

●上越市に愛着があると感じている市民の割合（年代別）



出所：上越市総合政策課（令和4年上越市市民の声アンケート）



▲越後上越上杉おもてなし武将隊



▲えちご・くびき野100kmマラソン

## 基本目標4 魅力と活力があふれるまち

### 4-3-1 農業の振興



#### ありたい姿

地域の特色や生産者のこだわりをいかした上越らしい農業が確立しているとともに、水稻と園芸等との複合経営が進み、所得の向上が担い手の確保・育成につながる好循環が生まれ、魅力ある持続可能な農業経営が実践されています。

#### 現状

- ・近年、農業生産活動は、食の安全性や食料の安定供給、持続的発展や自然環境の保全との両立が強く求められる一方で、米消費の減少や米価の低迷等から、水稻単作が多い当市の農業者の経営環境は一層厳しさを増し、さらには、農業者の高齢化や後継者不足により、地域農業の維持や農地の荒廃が懸念されています。
- ・特に、中山間地域においては、急傾斜地に不整形の水田が点在していることや、安定した水利が確保できないなど生産条件が不利なことから、担い手・後継者の確保がより厳しく、農業生産活動や農業用施設を維持する共同作業の継続が困難となっています。
- ・このほか、イノシシによる農作物被害が平野部まで拡大し、有害鳥獣捕獲活動や鳥獣被害対策実施隊<sup>※</sup>の活動において、猟友会と実施隊員の負担が増加しています。

#### 目標

- ・魅力ある当市の農業が市内外に広く認知され、担い手が継続的に確保されています。
- ・農地の集積・集約化や生産コストの削減による農業経営の安定化が図られています。
- ・農産物や農産加工品の評価の向上と販路拡大により農業所得が向上しています。
- ・中山間地域において、担い手・後継者が確保され、農業生産活動が継続するとともに、所得の確保につながる高付加価値農業が実践されています。

#### 成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
新規就農者数	26人 (R3)	228人 (R3-R8累計)	380人 (R3-R12累計)
認定農業者 <sup>※</sup> 等の担い手への農地集積率	71.5% (R3)	82.5%	90.0%
猟友会への新規入会数	23人 (R3)	140人 (R5-R8累計)	220人 (R5-R12累計)
有機農業に取り組んでいる面積	57ha (R3)	90ha	120ha
販売額おおむね1億円規模の園芸品目	0品目 (R3)	2品目	4品目

## 施策の柱

### 1 担い手の確保・育成

- ・新規就農者の確保に向けて、様々な就農イベントや農業体験、SNS<sup>\*</sup>等を活用し、当市の魅力ある農業と暮らしに関する情報を発信するほか、関係機関・団体と連携し、就農前の準備や就農後の営農指導、生活のサポートまでを一貫して対応する受入態勢を継続していきます。
- ・中山間地域において、担い手や後継者が安心して就農することができるよう、中山間地域等直接支払交付金制度<sup>\*</sup>の活用など平野部との生産条件格差を是正するための措置を積極的に講じるほか、半農半X<sup>\*</sup>の推進や意欲的な農業者の取組を支援します。

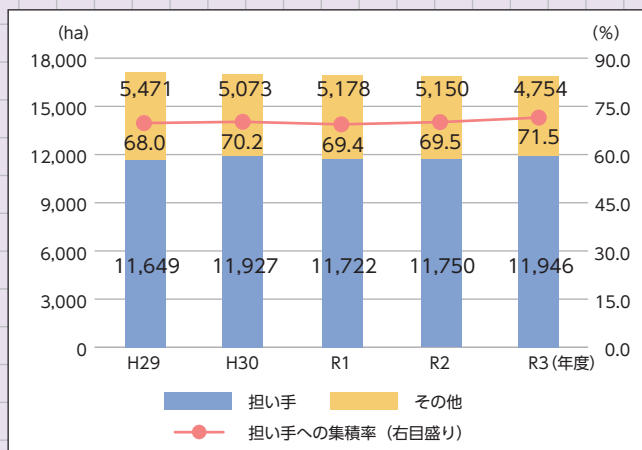
### 2 生産基盤の強化・充実

- ・安定した農業経営と所得の確保を図るため、生産性向上に資するほ場の整備を契機として担い手への農地の集積・集約化を推進するとともに、農業用水路等の長寿命化を推進します。
- ・中山間地域農業が将来にわたって維持できるよう、地域の話合いにより共有された将来像の実現に向けた地域主体の各種取組に対し、関係機関・団体とともに伴走的に支援します。
- ・有害鳥獣対策には、ICT<sup>\*</sup>やドローン技術等を活用したスマート捕獲を推進し、猟友会と実施隊員の負担軽減を図るとともに、高齢化する猟友会会員の世代交代を見据え、若年層を中心に新しい人材を確保・育成します。

### 3 農業の収益性の向上

- ・所得の向上と経営の安定を図るため、需要に応じた米生産を進めるほか、デジタル技術を活用したスマート農業<sup>\*</sup>の推進による生産コストの削減や、園芸を始めとする高収益作物や畜産との複合経営、有機農業等の環境保全型農業の促進などに取り組みます。
- ・農業者が加工・販売までを手がける6次産業化<sup>\*</sup>への支援とあわせ、農商工連携を推進し、農産物の魅力を高めるとともに、農業所得の向上につなげます。
- ・農産物等の販売力の強化に向け、農業者が自ら取り組む販売促進活動を支援します。

●認定農業者等の担い手への農地集積率



出所：上越市農政課



▲スマート農業機械（自動操舵付きトラクター）

基本目標4 魅力と活力があふれるまち



## 4-3-2 林業・水産業の振興

### ありたい姿

豊かな恵みをもたらす森林、水産資源が適切に保全・活用され、多面的な機能の維持増進が図られているほか、ICT\*技術等の活用を通じて、生産性や収益性の向上が図られ、森林、水産資源を安定的に供給できる持続可能な生産体制が整っています。

### 現状

- ・林業では、市内の林野面積の4分の1を占める人工林を中心に利用期を迎えつつある中、過疎化や高齢化の進行から担い手が不足するとともに、長期的な木材価格の低迷により、所有者の林業経営に対する関心が薄れ、管理の行き届かない森林が増加しています。
- ・また、水産業では、水産資源の維持に向けて、漁業団体が行う種苗放流などの取組を支援しているものの、魚価の低迷や漁業者の高齢化により担い手不足が深刻な状況となっています。

### 目標

- ・森林整備が促進されるとともに、森林資源の循環利用を通じて、山地災害の防止や水源かん養\*、木材生産等の森林が有する多面的機能が発揮されています。
- ・林業者の経営が安定的かつ効率的に行われ、林業の担い手が確保されています。
- ・水産資源の保護・活用により収益性が向上し、水産業の担い手が確保されています。

### 成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
林業・水産業従事者数	林業：57人 (R3) 水産業：214人 (R2)	林業：62人 水産業：214人	林業：66人 水産業：214人
森林組合等による市内産木材（間伐材含む）の出荷量	10,999m <sup>3</sup> (R3)	15,500m <sup>3</sup>	19,000m <sup>3</sup>
1 漁業経営体当たりの平均漁獲量	3.2t/年 (R2)	3.2t/年	3.2t/年

## 施策の柱

### 1 担い手の確保・育成

- ・林業・水産業の持続可能な経営体制を構築するため、国や県と連携し、担い手の確保・育成に取り組めます。
- ・林業では、森林経営管理制度<sup>\*</sup>等の取組により、長期的な林業経営の安定化を図るとともに、森林資源を活用した取組を通じて、里山の魅力を伝えていきます。
- ・水産業では、漁業団体等と連携し、四季折々の旬の地元水産物のPRなどを通じて、水産物の消費拡大を推進し、経営安定化を図ります。

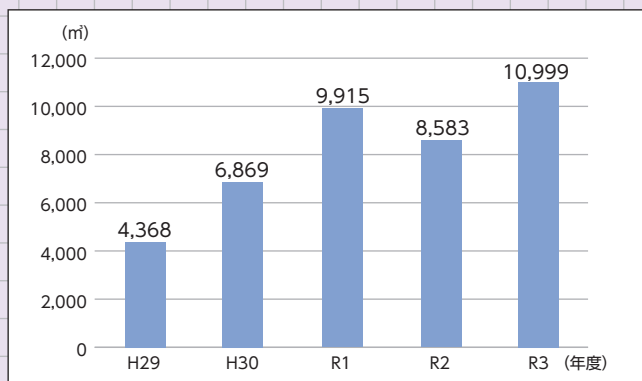
### 2 森林・水産資源の保全・活用

- ・森林整備と森林資源の循環利用を促進するため、国や県と連携し、間伐や作業道の整備、造林等を支援します。
- ・森林環境譲与税<sup>\*</sup>を活用した森林経営管理制度の取組により、森林の適正な管理を促進することで森林の有する多面的機能を発揮していくとともに、公共施設等への地域産材の利活用を促進します。
- ・水産資源を維持し、将来にわたり持続的な漁獲量を確保していくため、漁業関係団体による種苗放流を支援します。

### 3 林業・水産業の収益性の向上

- ・林業の収益性の向上を図るため、森林整備の支援や木材需要の拡大に取り組めます。
- ・また、小規模・分散化している森林の集約化を図るとともに、ICT<sup>\*</sup>等の先端技術を活用したスマート林業<sup>\*</sup>の導入を促し、林業の効率化・省力化を推進します。
- ・水産業の収益性の向上を図るため、漁業団体等と連携し、地魚などの付加価値を高めるなど、水産資源を活用した取組を促進します。

●市内産木材の出荷量



出所：新潟県農林水産部林政課



▲ドローンを活用した森林調査

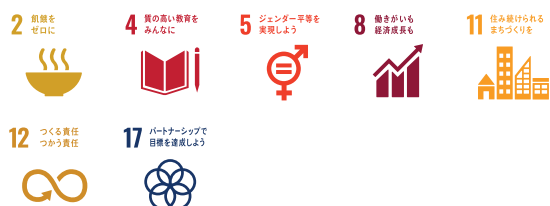


▲里山の魅力を伝える体験イベント



## 基本目標4 魅力と活力があふれるまち

## 4-3-3

農林水産業の  
価値と魅力向上

## ありたい姿

魅力的な地域食材の活用や健康的な食生活の実践が図られるとともに、農林水産物の生産活動等に多様な主体がかかわる中で、地域の豊かな自然、食文化等の魅力や生きがいを実感しながら、心身ともに健康で充実した生活が送れています。

## 現状

- ・ 棚田が多く存する中山間地域においては、農業と結びついた独自の伝統文化が発達し、これらが守り伝えられてきたものの、過疎化や高齢化の進行が著しく、棚田の荒廃化が進むことで、豊かな多面的機能や伝統文化の喪失が懸念されています。
- ・ 近年、安心安全な食への関心が高まる一方で、ライフスタイルの多様化による、食に関する価値観や食生活の変化などを背景に、若い世代において、食育への関心や実践度が低い傾向にあります。
- ・ 農産物直売所の利用促進や地産地消推進の店の認定などにより、地産地消の意識は浸透しつつあるものの、生産現場では、園芸作物の生産量が少ない状況にあります。
- ・ 加えて、農林水産業において、高齢化と後継者不足が顕在化しており、多様な担い手の確保・育成が求められています。

## 目標

- ・ 多面的機能を有する棚田が、市民共有の財産として広く認識され、多様な主体の参画と連携によって守られる中で、地域の伝統文化等が継承されています。
- ・ 市民一人一人の「食」への関心が高まり、各ライフステージにおいて食育が実践されています。
- ・ 消費者が地域食材の良さを知り、地産地消が推進されています。
- ・ 高齢者や女性、障害のある人等が、生きがいを感じながら農業分野の担い手として活躍しています。

## 成果指標

項目	現状値	R8 中間目標値	R12 目標値
農林水産物等を返礼品として選択したふるさと納税 <sup>*</sup> の金額	0千円 (R3)	225,000千円	350,000千円
食育に関心を持っている市民の割合 (食育に関する市民アンケート)	77.7% (R3)	90.0%	90.0%以上かつ R8実績値以上
地産地消推進の店の認定数 (累計)	173軒 (R3)	180軒	188軒
障害のある人が農作業に従事した延べ人数	2,375人 (R3)	3,200人	4,000人

## 施策の柱

### 1 魅力ある地域資源の有効活用

- ・ 棚田地域の振興活動への多様な主体の参画と連携を促すため、中山間地域等直接支払交付金<sup>※</sup>などを活用し、棚田が持つ魅力や豊かな多面的機能に関する情報を市内外に向けて積極的に発信します。
- ・ ふるさと納税制度<sup>※</sup>を活用するなど、当市の様々な魅力ある農産物をPRし、地域の活性化に取り組みます。

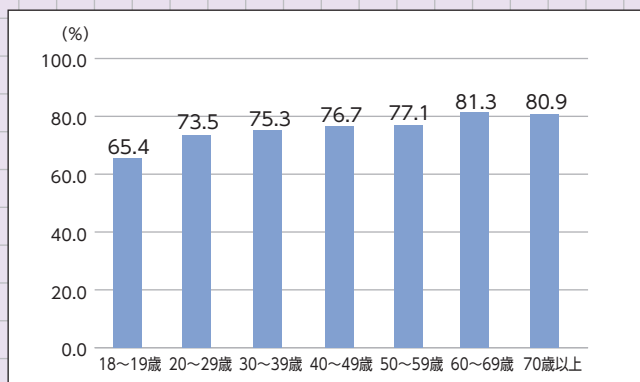
### 2 食育・地産地消の推進

- ・ 農産物直売所に携わる生産者と利用者の増加を図るため、直売所間の情報交換や連携イベントの開催、季節ごとの積極的な情報発信などに取り組みます。
- ・ 「上越野菜<sup>※</sup>」を始めとした地場産農産物や、環境と調和した方法で生産された農林水産物の消費を拡大するため、収穫体験や料理教室等の取組や旬の食材を広く市民に周知するとともに、小売店や飲食店、学校給食における地域食材の積極的利用を促進します。
- ・ 市民が食に関する知識を習得し、健康で充実した生活を送ることができるよう、家庭や学校、地域、関係機関が連携して食育活動を強化し、市民の食育の実践と定着を図ります。

### 3 喜びと生きがいを感じられる生産活動の推進

- ・ 持続的な農林水産業の発展と生産活動を通じた生きがいの創出に向け、農業者との意見交換の場などを通じて、高齢者や女性が活動しやすい環境づくりに取り組むほか、農業と福祉の連携により、障害のある人等の就労機会の拡大と就労環境の向上に取り組みます。

#### ●食育に関心を持っている市民の割合（年代別）



出所：上越市農政課（令和3年度食育に関する市民アンケート）



▲料理サイトでの郷土料理や地場産食材を使用したレシピ掲載



▲農業分野と福祉分野の連携による大根収穫作業